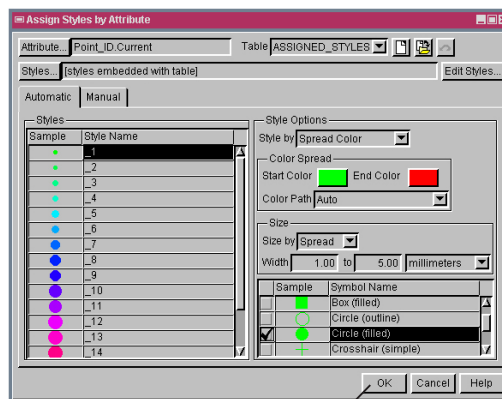


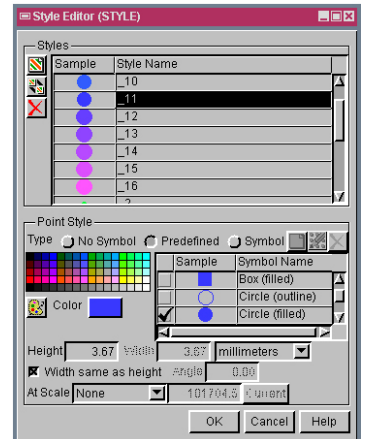
# 属性の自動スタイル割り当て

TNT製品の自動スタイル割り当て処理では、図形オブジェクトの内部要素やリンク要素にアタッチされた属性値に描画スタイルを自動的に作成し、割り当てます。自動的に作成されるスタイルには、ポイントに対してあらかじめ定義されたシンボルや、ラインの色、ポリゴンの塗り潰しがあります。この処理では属性値に対してランダムに色を割り付けたり、カラーパレットを定義してそれからランダムな色が選択されます。あるいは自分で色を定義して任意の要素タイプに対してカラーブレッドを適用することができます。また、幅の範囲を入力してポイントシンボルやライン要素、ポリゴンの縁に対して大きさや幅のサイズを徐々に変えること（スプレッド）ができます。スタイルを自動的に属性に割り当てた後は、個別にスタイルを編集することができます。

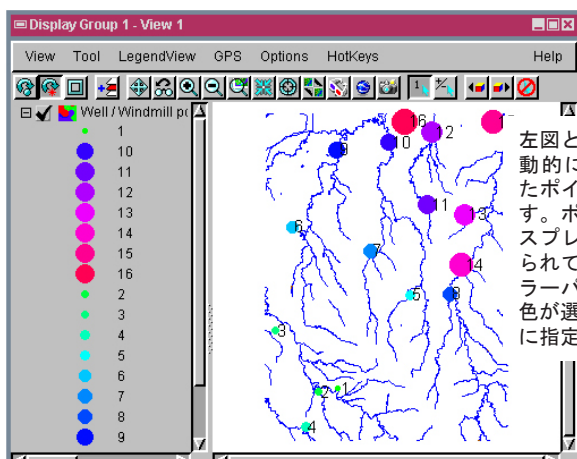
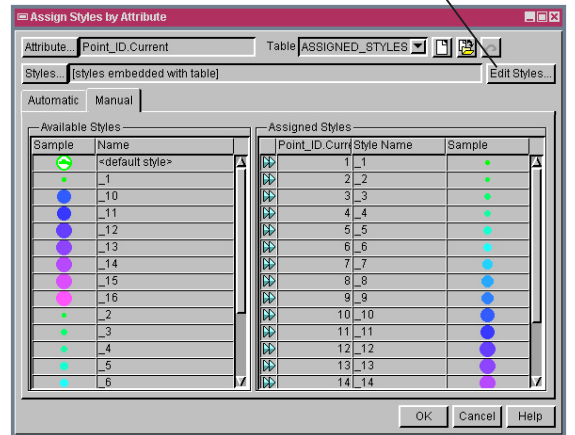
オブジェクトレイヤコントロールウィンドウの中の任意の要素タイプに対して〈属性によるスタイルの割り当て〉ウィンドウを開くことによって自動スタイル割り当てを使用することができます。属性テーブルとフィールドを選択すると、[自動] タブパネルがデフォルトで開きます。対応する属性値と同じ名前でサンプルの描画スタイルが自動的に一覧表示されます。[自動] タブパネルを使うとスタイルのサイズや色、透明度、スケール情報など様々な設定を行うことができます。色とサイズのオプションでは属性に対してスタイルをランダムに割り当てたり、サイズと色のスプレッドを使ってスタイルをコントロールすることができます。自動で作成されたスタイルはスタイルオブジェクトに保存されます。標準のスタイルエディターを使い、各スタイルの定義にアクセスして編集することができます。[マニュアル] タブパネルを使って、作成したスタイルを別の属性に再度割り当てることができます。同じ属性値に自動スタイル割り当てを使用する度に、以前に作成された描画スタイルセットは新しいスタイルセットに置き換えられます。



[OK] ボタンを押すと右図のように属性に自動的にスタイルが割り当てられます。[マニュアル] パネルを使ってスタイルを属性値に再度割り当てることができます。



[Edit Style (スタイルの編集)] ボタンを押すと標準のスタイルエディター（上図）が開き、新しいスタイルを作成したり、既存のスタイル（自動で作成されたものも含む）を編集することができます。



左図と右図は属性によって自動的にスタイルが付けられたポイントとポリゴン要素です。ポイントは色とサイズのスプレッドを使って割り当てられています。ポリゴンはカラーパレットからランダムに色が選択され、透明度を50%に指定しています。

